



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.25
六甲山地に埋められた
宝物/谷 正俊
2005年4月発行

第25回テーマ:六甲山地に 埋められた宝物



灘区桜ヶ丘出土銅鐸・銅戈

講演内容

- ①六甲山に埋められた
謎の宝物（銅鐸）
- ②山の上に弥生時代の
ムラを発見！
- ③海人たちも山を活用した

実施日：平成17年4月16日（土）
午後1時～4時

場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：谷 ^{たに} ^{まさとし} 正俊さん

プロフィール

1960年生まれ。立命館大学文学部卒業後、1984年に神戸市教育委員会文化財課に所属。以来、神戸市内の埋蔵文化財発掘調査に従事し、市内各地の遺跡調査を行う。

小春日和の六甲山、ストーブに集結

六甲山に春がやってきました。ドライブウェイに咲く山桜、自然歩道で満開のアセビやクロモジなど、山は美しい装いでした。

11月末から冬期休館していた自然保護センターが開館し、4ヶ月ぶりにレクチャールームへ集合しました。外に比べて部屋の中は冷んやりしており、1台のストーブを囲んで暖を取りました。



ストーブを囲みながら談話

「僕は考古学ボーイ」と語る谷さん

谷さんは、神戸市西区の「神戸市埋蔵文化財センター」に勤務され、20年間埋蔵文化財の発掘調査や遺跡調査に従事されています。

講演の冒頭は、あまり紹介されていない発掘作業や文化財になるまでの一連作業の様子をご紹介いただきました。想像以上に細かく根気のいる作業内容を知って、大変驚きました。

古代人にとってかけがえのない六甲山地

灘区の桜ヶ丘や東灘区の渦が森などから発見されている銅鐸や遺跡を紹介していただきました。

弥生時代、人々は六甲山地の小高い丘に集落をつくり、外敵から身を守る一時避難場所として生

活していました。古墳時代では、瀬戸内海沿いに古墳が並び、高取山や甲山などが信仰の対象とされていたことを学びました。現在私たちが六甲山を活用するように、遙か古代の先祖も六甲山地と関わる生活をしていたことを身近に感じました。六甲山のグリーンベルト地帯と山麓の遺跡が符合しているのを、奇縁を感じます。

足下にあった遺跡に感動

今回、自分達の足下にある遺物や遺跡に触れることができました。六甲山麓の古代史を知り、地元神戸に愛着が深まりました。

平成17年度第一弾の市民セミナーが快調に発信できました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 澤田 俊哉さん

神戸は、源平の頃と維新の開港以来の町、というイメージが強かったので、弥生時代の銅鐸などが出土しているという意外でした。また出土した場所が市街地ではなく、山の中と聞き、古代人達がそこで何をし、何のために使ったのか、謎めいて面白いと思いました。

私の住まい神戸市西区の近くでも、たこ壺が見つかった遺跡があり、当時の生活ぶりが窺えるとともに案外現代にも通じるものがある気がしました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
(財) 大阪コミュニティ財団 (東洋ゴムグループ環境保護基金)